

JSS 海外安全速報

西部、中部、北部で麻薬組織による騒乱続発 ＜メキシコ：犯罪組織＞

1. 西部と中部で車両・店舗多数に放火

メキシコ西部のハリスコ州と中部グアナフアト州で、8月9日（火）～10日（水）に麻薬組織が国軍の摘発作戦に反発して車両・店舗に連続放火したのに続き、11日（木）～12日（金）には北部チワワ州でも、刑務所内で発生した麻薬組織の抗争が所外に波及した。

ハリスコ州では、9日夕にグアダラハラ州都圏北方約50kmのクキオとイストラウアカン・デル・リオの市境地域で、国軍部隊と麻薬組織「ハリスコ新世代カルテル（CJNG）」の武装グループが交戦した。それを切っ掛けに、翌10日未明にかけてCJNGが同州都圏のサポパンや同州に隣接するグアナフアト州レオン、イラプアト、セラヤなどで車両やコンビニエンスストアを次々に放火した。

サポパンでは午後7時50分頃、同市北東部のア・サルティージョ幹線道路とチカロ通りの交差点付近で、武装グループがバスの乗客らに降車を強要した上でバスに放火し、これを皮切りに同市北部のサンイシドロ通りで3台、ラ・シマ通りでも1台が放火されたほか、ハルディーネス・デル・バジェ地区のコンビニ「7-Eleven」などが放火された。現地報道によると、この他に車両9台が放火されている。

グアナフアト州では、最大都市レオンおよび国道45号線上の主要都市であるイラプアトやセラヤを中心に同様の放火が続発し、車両26台とコンビニ等29店が被害を受けた。被害店舗のうち25店は同国の大手コンビニ・チェーン「OXXO」であった。

レオンでは車両4台、コンビニ2店、薬局1店、イラプアトではコンビニ20店と薬局、ガソリンスタンド、家電店が各1店、セラヤでは車両4台とコンビニ3店が少なくとも放火され、全焼または焼損した。

ハリスコ、グアナフアト両州での一連の騒乱事態は10日朝までに沈静化し、マヌエル・ロペス・オブラドール大統領（通称AMLO）は11日朝の定例会見で「死者は出ていない。市民1人が死亡したとの報道があるが、市民ではなく犯罪組織のメンバーだ」と発表した。

現地では当初、「CJNGの殺し屋部隊『グルポ・エリテ（エリート部隊）』のリーダーであるリカルト・ルイス・ベラスコ、通称ドブレ・エレ（ダブルR）の逮捕が発端だった」と報じられたが、その後、同人も参加したイストラウアカン・デル・リオでのCJNGの幹部会議を対象に実施された国軍の摘発作戦が切っ掛けだったとの見方が有力になっている。

事件後にCJNGのメンバー16人が逮捕されたが（ハリスコ州で5人、グアナフアト州で11人）、AMLOは前述の記者会見でドブレ・エレが逮捕されたとの報道を否定した。

2. 北部で刑務所の囚人間の衝突が所外に拡大、市民を含む11人死亡

チワワ州の米国境に位置する同州最大都市シウダーフアレスの州第3刑務所では、11日午後1時37分頃に麻薬組織「シナロア・カルテル（CDS）」系の「ロス・メヒクレス」と「ロス・チャポス

(別名：ロス・チャピートス)」に所属する囚人グループ間の衝突が勃発し、数時間後には所外でも「ロス・メヒクレス」の武装グループが「ロス・チャポス」のメンバーと見られる者のほか、事務所、商店、ガソリンスタンド、車両などを相次いで襲撃・放火した。

この騒乱事態は翌12日朝までに沈静化したが、州検察発表によると計11人が死亡、12人が負傷し、10人が逮捕された。

ハリスコ、グアナフアト両州におけるCJNGの連続放火事件では一般市民の死傷者がほとんど出なかった一方、シウダーフアレスでは一般市民も死傷している。同市では武装グループによるコンビニ「Circle K」への銃撃で男児（12歳）が死亡、他に3人が負傷したほか、武装グループに火炎瓶で放火された商店では、逃げ遅れた女性店員ら2人が一酸化中毒で死亡した。

ハリスコ、グアナフアト両州の事件とチワワ州の事件との間に直接的な繋がりはなく、発生原因も大きく異なっているが、後者の連続放火は前者に触発された犯行の疑いがある。

メキシコでは近年、麻薬組織によるこの種の騒乱事態はあまり起きなくなっていたが、CJNGやCDSは、それを実行するだけの勢力を依然として維持していることを示した。今後も、例えば麻薬組織の首領や有力幹部が対立組織や治安部隊によって逮捕・殺害されたり、窮地に追い込まれたりした場合、再び激しい騒乱を誘発するおそれがある。

駐在員、出張者等の留意事項

- ① 外出中に麻薬組織による騒乱発生の情報入手したら、直ちに最寄りの安全な場所（自宅や事務所から離れている場合は大規模商業施設、高級ホテルなど）へ避難し、事態が完全に沈静化したと判断できるまでその場に留まる。
- ② 襲撃の巻き添え被害を避けるため、政府・治安当局の施設や治安部隊には極力近づかない。また、治安要員の警戒心を刺激するような行動（急加速、咄嗟のUターン等）は避け、停止などの指示を受けた際には素直に従う。
- ③ 万一、武装集団に停止を命じられた場合は、決して無理に逃げようとしない。
- ④ 直近で銃撃戦が勃発したら直ちに姿勢を低くし、地形地物を利用して物陰に隠れる。その場から離脱可能と判断した場合、極力低い姿勢を維持しつつ、直ちに全力で現場から遠ざかる。
- ⑤ 麻薬組織による襲撃や騒乱では、コンビニ（ガソリンスタンド併設を含む）や薬局などの小規模店舗が被害に遭うケースが多いので、日頃からそうした施設への立寄りを控える。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。